

06 設計演習 II A
1. 住宅設計

開講年次：学部2回生 後期

[担当教員]

山崎寿一(教授) 近藤民代(准教授) 山口秀文(助教)
島田陽(島田陽建築設計事務所) 山隈直人(kt 一級建築士事務所)

[Teaching Assistant]

竹田理沙(A66) 野田杏菜(A66) 羽山華望(A66)

住宅課題：開かれた家

設計課題のテーマは「開かれた家」とする。住宅は家族だけで住み、生活をするだけの器なのか。従来型の住宅パラダイムにとらわれない新しい住宅を構想して提案してほしい。コミュニティカフェを併設した住宅、ワークスペースを備えた住宅、他者と住まうシェアハウジング(但し、家主が居住していること)など、社会や地域への開き方を各自で想定する。居住者構成やライフスタイルは設計条件として、各自が具体的に設定する。

■居住者構成とライフスタイル等の基本要件

居住者構成、居住者のライフスタイル、住宅設計の基本条件は各自で設定する。単身や親族以外の同居も可とする。居住者構成とライフスタイルに応じた空間構成や周辺環境を活かした設計を行う。

■敷地：選択制とする。

敷地 A (160 m²): 八幡神社の南側、参道沿い。

敷地 B (300 m²): 阪神・淡路大震災土地区画整理事業区域内。北側に六甲道北公園。

■構造・階数

自由に想定してよい。

■用途地域

敷地 A (160 m²): 第1種中高層住居専用地域(建蔽率 60%, 容積率: 200%)

敷地 B (300 m²): 第1種住居地域(建蔽率 60%, 容積率: 200%)

■所要室等

標準家族のための専用住居として必要な室だけに留まらず、家族以外の者による居住や利用等、新たな暮らしへの提案も含むものが望ましい。

■提出物・用紙

(1) 所用図面

1 配置図兼1階平面図 1:100

2 各階平面図 1:100

3 立面図 1:100

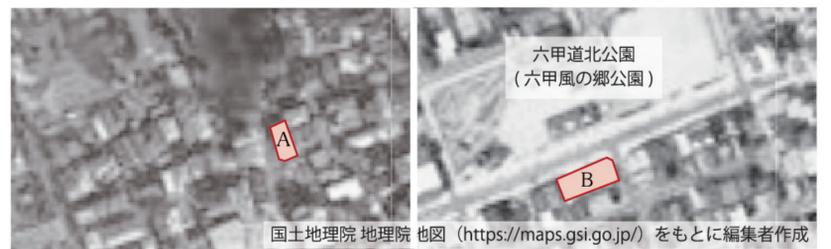
4 断面図 1:100

5 模型写真

6 外観スケッチ、透視図

7 設計主旨・面積表

(2) 用紙:A2 版ケント紙(仕上げ、彩色等自由)

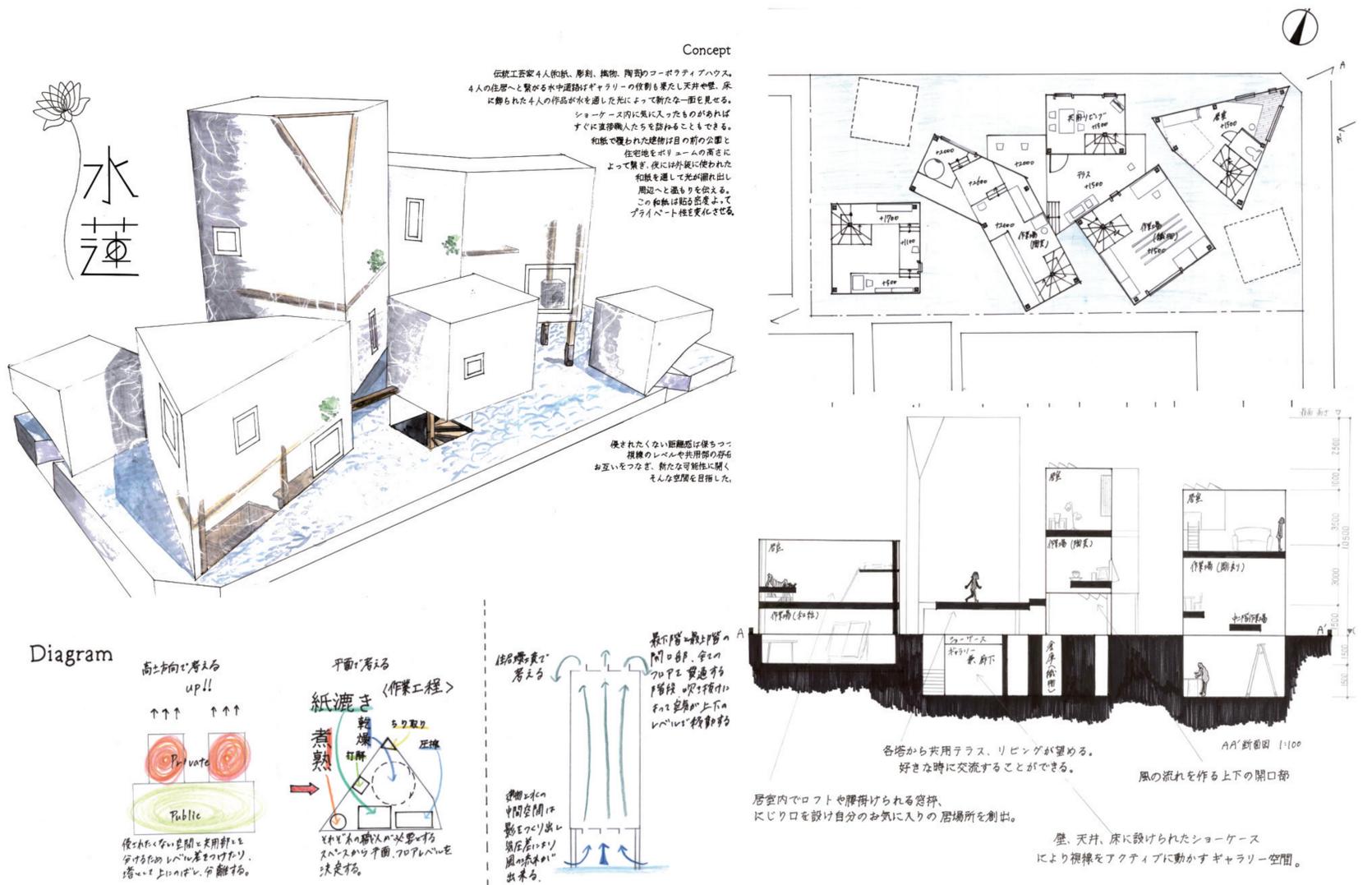


国土地理院 地理院 地図 (https://maps.gsi.go.jp/) をもとに編集者作成
課題敷地

水蓮

藤谷優太

伝統工芸家4人(和紙、彫刻、織物、陶芸)のコーポラティブハウス。和紙の重なりでプライベート性、職人の作業工程で平面、水盤から反射した光で明暗も変化させる。違う職業の人間が互いを感じられる空間にいて互いに成長していける空間を目指した。

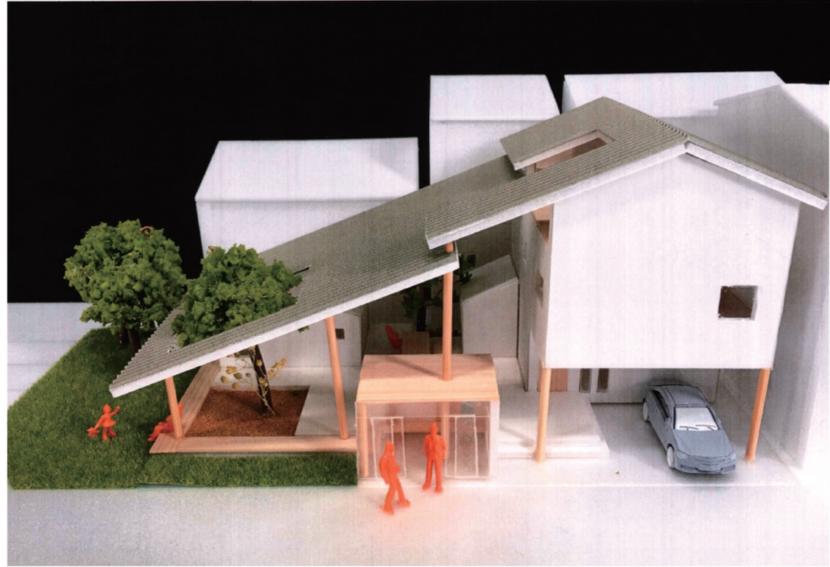


平日の家、休日のイエ

山路雄統

これからますます増加していくと予想される共働きの核家族に新たな暮らし方の提案としてこの住宅を設計した。この住宅では平日は閉じた「家」で過ごし、休日には趣味を楽しみながら井戸端会議を開催し、開かれた「イエ」ですごす。

平日の家、休日のイエ



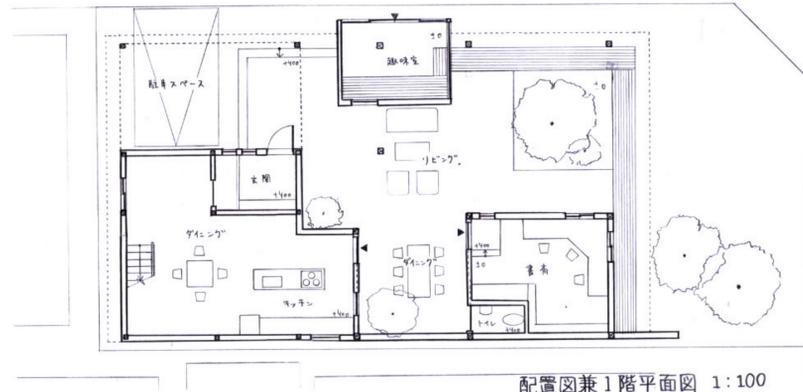
平日の家

ピロティによって道路から隔離し、プライベートが確保されている。キッチンも平日、休日のどちらでも使える位置に配置した。

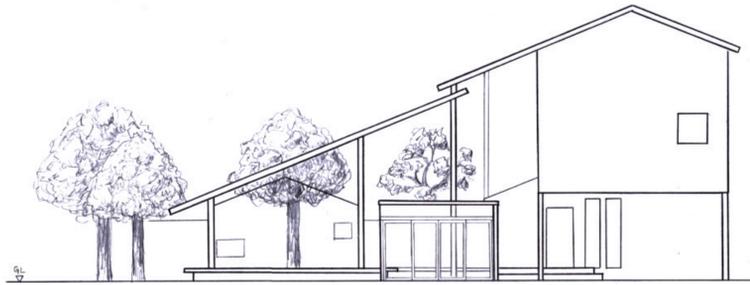


休日のイエ

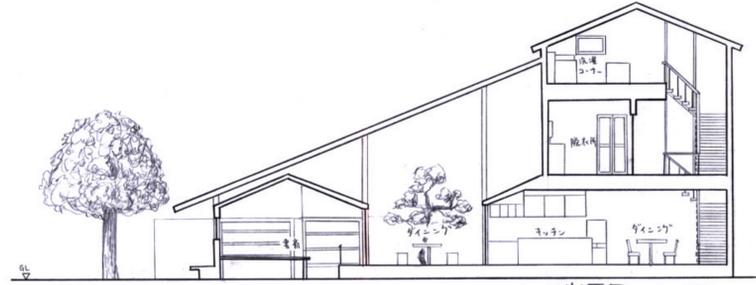
道路に向けて飛び出した趣味室と大きな機間に移した庭。作業している様子が見えることで居て落ち着くところがあることで住人と歩行者との会話が生まれやすい。



配置図兼1階平面図 1:100



北側立面図 1:100



A-A'断面図 1:100

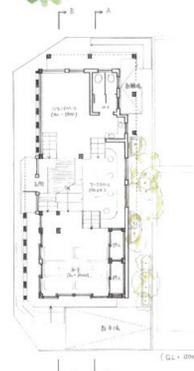
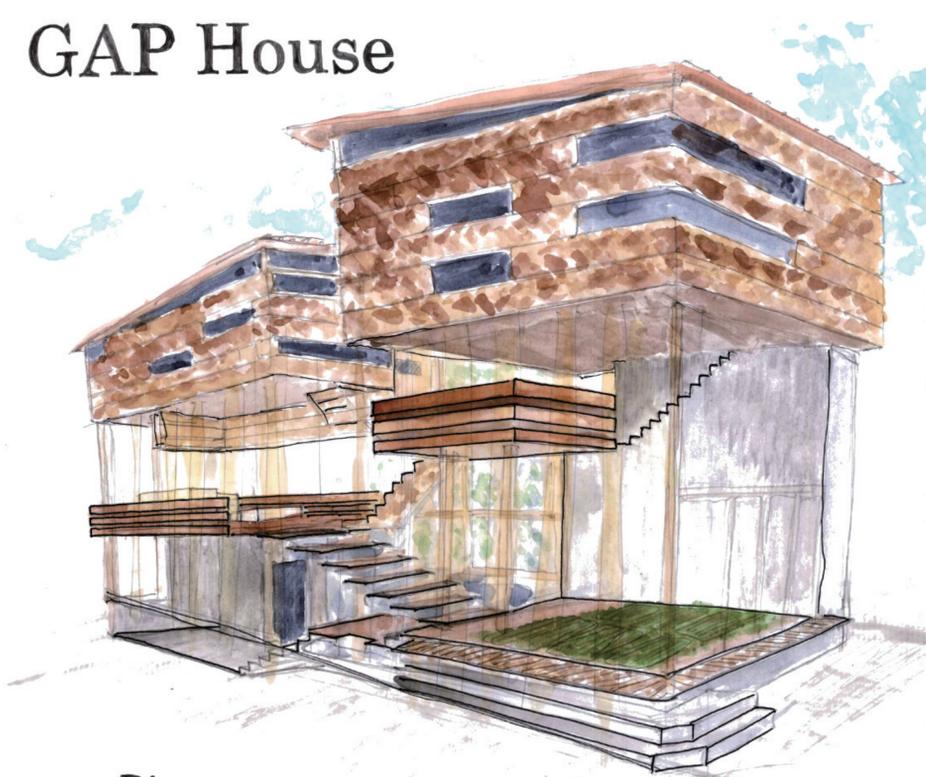
1714060T 山路雄統 2/

GAP House

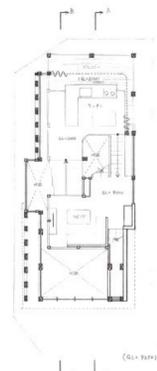
長田遥哉

子育てを終えた夫婦が留学生を居候させる住宅。地域の子どもの交流を目指した和室と半パブリックなキッチンを中心に、家族のリビングなど各居室の段差をデザインすることで繋がりを考えた。近すぎず遠すぎない関係性、内と外の両方に開かれた住宅を目指した。

GAP House



配置図一階平面図 1:100



二階平面図 1:100

Diagram

